

# 令和元（2019）年度 事業活動報告・活動計算書

（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

認定特定非営利活動法人 全国盲導犬施設連合会

## 事業活動結果



「ともに生きる、ともに歩む」を共通の理念に、視覚障害者が盲導犬を使用し自立と社会参加を図れるよう、全国の盲導犬訓練法人施設の連合体として、広く盲導犬の普及啓発、相談、盲導犬無償貸与への助成等を実施した。

### 1. 普及啓発事業

- 1) 広報誌デュエット29号15万部、ポスター6千枚を作成配布、並びに店舗等の入口に貼っていただく補助犬同伴可ステッカーを作成配布した。
- 2) 視覚障害者向け盲導犬情報（点字版、墨字版、CD版）を2回（9月23号、3月24号）発行し、盲導犬ユーザー、点字図書館、盲導犬育成施設、都道府県視覚障害者担当部局などに配布した。
- 3) パトラッシュ募金箱に備え付けのリーフレット3000部を刷新した。
- 4) 卓上成犬募金箱に備え付けのリーフレット3000部を増刷した。
- 5) 運営資金確保のため、継続寄附を募る連合会寄附サポーター制度「DUETサポーター」を12月より開始し、クレジットカードでの寄附受付を導入した。
- 6) 大手スーパーに設置している等身大盲導犬募金箱について、8台の新規導入、40台の修理入替を行い、募金額の増額に努めた。
- 7) 盲導犬とのふれあい教室をはじめ、啓発イベントを合計29回実施した。
- 8) パトラッシュ基金では、募金箱設置企業でのイベント、また例年どおりベルギー・フランダース政府貿易投資局の協力によるイベントでの募金活動を行った。
- 9) 寄附・募金箱設置協力企業への感謝状については、本年度末になって拡大した新型コロナウイルス感染拡大の影響により予定していた回数は行えなかった。
- 10) 盲導犬受入促進に向けて、補助犬同伴可ステッカー配布に力を入れ、東京都生活衛生営業指導センターを通して、各団体に1万枚の配布を依頼した。
- 11) 連合会オリジナル盲導犬カレンダーを例年通り作成し、寄付者や関係各所へ配布し、盲導犬事業への理解と継続支援、また普及に努めた。



### 2. 相談室事業

- 1) 盲導犬貸与希望、入店拒否、使用者相談、事業者・市民からの相談など149件の受付対応を行い、加盟施設と協力してすみやかに具体的な解決を図った。
- 2) 盲導犬ユーザーによる犬の不適正使用の目撃クレーム通報について、苦情解決対応フローチャートに沿って各施設と連携して迅速に調査を行い、その結果を回答するなど丁寧に説明し、盲導犬に対する理解を図った。



### 3. 資格認定事業

- 1) 訓練士2名を、資格認定審査要綱に則り、以下のとおり知識・技能を確認し、資格を認定した。
  - ・学科修得確認テストを各施設で8月と12月に実施
  - ・実技審査会を、1月に関西盲導犬協会を会場に開催
  - ・実技審査員打ち合わせ会を2月に日本盲導犬協会にて開催
  - ・資格認定委員会を、4月、10月、3月の3回開催
  - ・理事会に本年度資格認定者付議 3月

### 4. 研修事業

- 1) 資格認定審査申込者を対象にしたスクーリングについては、盲導犬育成ジャパンセミナーのプログラムに組み込み、訓練士受験者はセミナー全期間参加及びレポート提出をもって可とした。
- 2) 加盟施設職員相互研修は、「①盲導犬パピープログラム、②窓口対応力向上職員研修会、③共同訓練プログラム」の3事業を実施した。



### 5. 使用者団体との相互協力事業

- 全日本盲導犬使用者の会(全犬使会)総会及び交流会（福島県猪苗代町）へ近隣地域の施設職員派遣を行った。

### 6. 情報交換及びネットワーク構築事業

- 1) 各訓練施設の責任者全員による運営委員会を4回開催し、盲導犬の育成訓練と普及、事業に係る

- 諸課題について協議した。
- 2) 2月5日～6日の2日間、第5回盲導犬育成ジャパンセミナーを(公財)日本盲導犬協会神奈川訓練センターに於いて開催した。
- 3) 平成30年度(2019)盲導犬訓練施設年次報告書「(社福)日本盲人社会福祉施設協議会編」の印刷と関係部署へ発送を行った。  
※令和2年3月末日現在、国内の盲導犬実働数は909頭。国内の盲導犬育成訓練指定法人全11団体が令和元年度中に育成した盲導犬の頭数は102頭。内訳は、新しく盲導犬ユーザーのパートナーとなった盲導犬は33頭、2頭目以降の代替犬は69頭。
- 4) ANACargoによる盲導犬割引輸送協力利用の実績は24回であった。
- 5) 日本自動車販売協会連合会(自販連)盲導犬公益信託による盲導犬無償貸与助成について、本年度は5頭を推薦し、それぞれ助成を受けた。本公益信託は本年度をもって終了し、残余財産について次年度に交付を受けることになった。

### 7. 財政基盤支援事業

盲導犬の無償貸与促進を図るため、加盟施設が実施する盲導犬無償貸与にかかる費用の一部助成(1頭200万円)について、希望する視覚障害者に連合会助成として合計で盲導犬9頭分、連合会「特定資産積立金」取り崩し補助による盲導犬無償貸与として、本年度は19頭分(1頭200万円)、合わせて28頭(5600万円)の助成・補助を行った。

### 8. 調査研究事業

盲導犬ユーザーに、盲導犬同伴の受け入れ状況の全国調査を加盟施設一体となって行い、その結果をマスコミにリリースするとともにホームページで公表し、同伴拒否について見えてきた結果をもとに、盲導犬同伴を当たり前とする受け入れ促進活動を進めることにした。また、調査報告書としてまとめ、1000部作成した。

### 9. 国際交流事業

次年度開催の2020年国際盲導犬連盟(IGDF)セミナー・プラハ開催は、新型コロナウイルスの影響で予定していた5月から1年延期となった。

### 10. 顕彰事業

本年度は行わなかった。

## 活動計算書

(単位:円)

1) 収益の部		決算額
大科目	中科目	
受取会費	正会員受取会費	800,000
	計	800,000
受取寄附金	個人寄附金	11,503,448
	団体・法人寄附金	6,033,154
	特別寄附金	17,016,390
	募金	53,139,217
	計	87,692,209
その他収益	受取利息	22,693
	指定正味財産振替額	38,000,000
	計	38,022,693
経常収益計		126,514,902
2) 費用の部		決算額
大科目	中科目	
事業費	人件費	24,526,398
	普及啓発事業費	13,640,242
	相談室事業費	607,091
	資格認定事業費	898,455
	研修事業費	1,086,425
	使用者団体相互協力事業費	470,779
	情報交換・ネットワーク事業費	3,114,507
	財政基盤支援事業費	56,000,000
	調査研究事業費	539,763
	国際交流事業費	0
	顕彰事業費	0
	計	100,883,660
管理費	人件費	2,835,092
	その他管理費	3,944,442
	計	6,779,534
経常費用計		107,663,194
当期経常増減額		18,851,708